

冠婚葬祭などに欠かせない家紋だが、今野さんは、その技術を生かして工芸作品づくりに取り組んでいる。



家紋は自由に作ることができるため無数に存在する。家紋の一覧帳には、主な家紋約4,000種類が掲載され、室蘭市の市章もある。

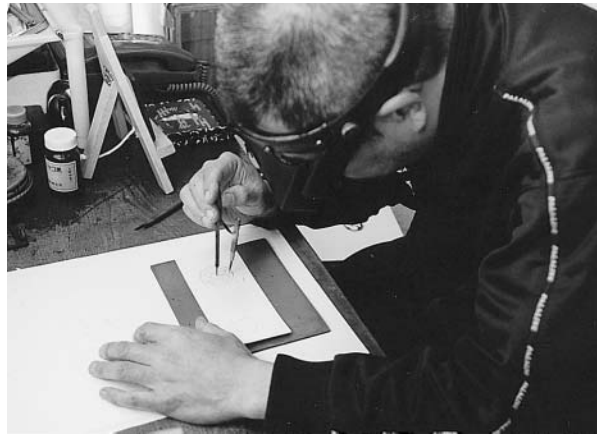


下絵書き / 筆とぶん回し(竹製コンパス)を使って下絵を描く  
紋型彫り / 小刀で紋(下絵)を切り抜き、紋型を作る  
抜染(ばっせん) / 紋型を生地に合わせ、薬品を塗ると、生地の色が抜け、真っ白な紋章が浮かび上がる。

紋とは、家々のしるしとして用いられるデザインのこと。自治体、学校、会社などの標章も含まれるが、皇室の菊花紋や徳川氏の葵紋などは、最もよく知られた家紋(紋所)であろう。  
今野孝之さんは、大正12年から続く柏屋今野紋章店の3代目上絵師。この道30年近いベテラン。上絵師とは、家紋を専門に書く職人のことで、室蘭ではただ一人。昔ながらのスタイルを守り、一つ一つ繊細な手作業で仕上げる。  
そもそも家紋はいつから使われているのか。平安時代の絵巻物には、すでに家紋が登場している。貴族の間では、調度品や衣装、車などに孔雀、唐草、蝶、ぼたんなど、当時の流行の模様をつける習慣があった。自分の所有権を示すと同時に、おしゃれを楽しんでいたとされる。いつしか、その模様が「家」と結び付いて家紋となったと

# ものづくりのまち むろらん シリーズ22

「家」の象徴、家紋。  
伝統文化を次の世代へ  
**柏屋今野紋章店**  
(常盤町)



いわれている。  
その後、武士も家紋を使い始める。源平の戦いでは、源氏が白旗、平家が赤旗を掲げて戦ったのは有名。戦乱の時代では、敵と見方を区別するため用いたとされる。江戸時代には、庶民の間にも広まりデザインも多様化。現在までその文化は受け継がれている。  
しかし、生活スタイルの変化とともに、着物を着る習慣が薄れ、家紋を目にする機会も少なくなった。今野さんは、「この先、家紋が次の世代に受け継がれるのだろうか」と心配している。と同時に「平安時代から続く日本の伝統文化を絶やしてはならない」との思いも強い。「家紋についての相談や問い合わせには、いつでも応じますので、気軽に声をかけてください」と今野さんは呼びかけている。  
問い合わせは、同店 ☎ 63339(まで)

## 人の動き (2月末現在 前月比)

人口	101,143人	( - 58人)
男性	48,770人	( - 29人)
女性	52,373人	( - 29人)
世帯	47,477世帯	( - 5世帯)

## こちら 幸町 (編集後記)

編集後記は今回で終了。編集作業における現場の声を掲載できないが、多くの情報を掲載し、意気込みを伝えていきたい。編集後記を編集好機に転換して、より充実した情報提供に努めたい。(ほ)

今月号まで20ページだったこの「広報むろらん」が、来月号からは16ページになる。ページは減っても、情報量が減らないよう、そして皆さんに親しまれる広報紙づくりに努力しなければ。(裕)

春です。しだいにボカボカ。何だかわくわく。入学、就職、異動、引っ越しなど新生活が始まる人も多いのでは。私自身そろそろ変化の予感が。変わらなければ7年目もよろしく願います。(ま)

「わが家の食卓」が今月で終了。第1回目から取材し「食べ？」続けてきた(あ)家の食卓もレバールアップ完了(したはず)。これまで快く自慢の腕をふるってくれた皆さん、ありがとうございました。(あ)